

LogicMOTHER 外部制御 関数仕様書

株式会社デルタコア

初版： 2005/12/27

4 版： 2006/1/28

5 版： 2006/6/20

1 . 制御概略

DLL経由で、外部制御を目的とする

機能設定は、マニュアルのアプリ操作でしておき、その設定ファイルのロードをする

対応アプリ：VC++、VB

2 . 制御コマンド

標準制御コマンド

ENABLE	使用可能状態（USB接続検査）
LOAD	全体機能設定ファイルのロード
LOAD_TRIG	トリガー機能設定ファイルのロード
RUN	実行
STOP	強制停止
CHECK	動作状態
SAVE	ファイルのセーブ
SERNO	シリアル番号取り出し
EXPORT	エクスポート形式のセーブ

ロジアナ番号選択コマンド

LM1	ロジアナ番号1選択
LM2	ロジアナ番号2選択

3．標準制御コマンド詳細

ENABLE	使用可能状態（USB接続検査）
(Status) 0: OK -1: NG	

LOAD	全体機能設定ファイルのロード
(IN) ファイル名（パス、拡張子なし）	
(Status) 0: OK -1: NG NG ファイル名エラーなど	

パス（フォルダ）は、ロジアナアプリのファイル データフォルダの設定が使用されます
拡張子は、システムが自動で付けています

LOAD_TRIG	トリガー機能設定ファイルのロード
(IN) ファイル名（パス、拡張子なし）	
(Status) 0: OK -1: NG NG ファイル名エラーなど	

RUN	実行
(Status) 0: OK -1: NG NG USBエラー	

STOP	強制停止（トリガー成立時は自動停止するので発行不要）
No	

CHECK	動作状態
(Status) 1: トリガー待ち 0: 終了、正常	

SAVE	測定データのセーブ
(IN) ファイル名（パス、拡張子なし）	
(Status) 0: OK -1: NG NG ファイルアクセスエラーなど	

SERNO	シリアル番号取り出し
(Status) 0: OK -1: NG (文字列データ) 例 . ”0509120301”	

EXPORT	エクスポート形式のセーブ データの加工をする場合、このコマンドが便利と思います
(IN) ファイル名 (パス、拡張子なし) エクスポート形式番号 (下記補足有り)	
(Status) 0: OK -1: NG NG ファイルアクセスエラーなど	
補足 : ロジアナマニュアル メニュー メニューバー ファイル エクスポート 以上を参照下さい エクスポート形式番号とは、ダイアログの4項目の選択を意味します 上から、0,1,2,3 です 拡張子は、csv、bin が自動で付きますので、拡張子は入力しないで下さい (例) “EXPORT,DATATEST,0” DATATEST.csv というファイル名でセーブされます “EXPORT,DATATEST,3” DATATEST.bin というファイル名でセーブされます コマンド入力方法の解説は後にあります	

共通ERR

(Status) -2の場合、未登録コマンド発行

(Status) -3の場合、ロジアナアプリとの通信不能

4．ロジアナ番号選択コマンド詳細

デフォルトで、ロジアナ番号1が選択されており、ロジアナ番号1を使用するなら発行は必要ありません

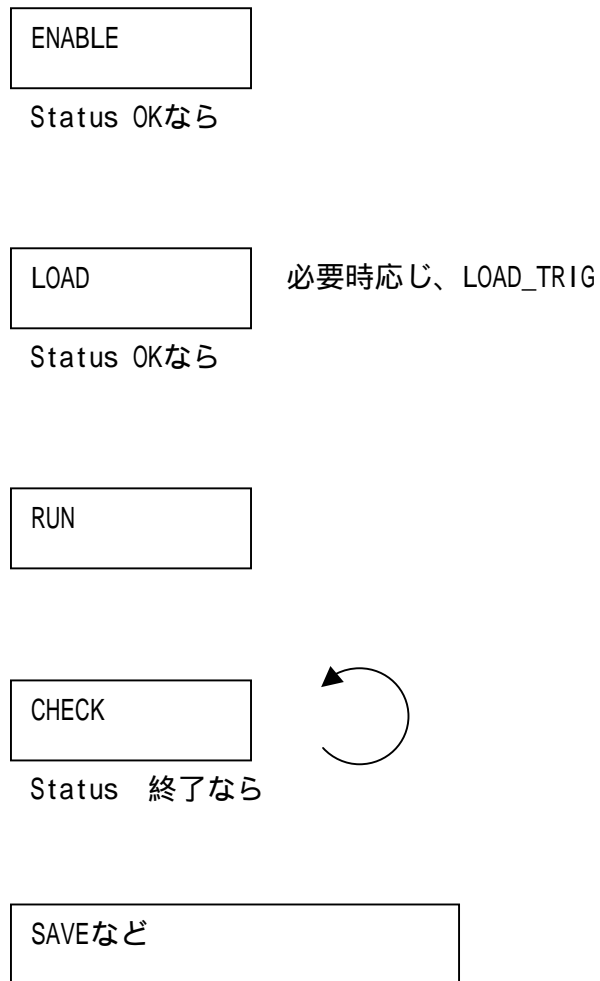
一度番号を変えるとそれ以降のコマンドが選択番号に対してものになります。発行は、番号を変えるときのみ一度発行します。

LM1	ロジアナ番号1選択
(Status)	
0: OK	
-1: NG	

LM2	ロジアナ番号2選択
(Status)	
0: OK	
-1: NG	

5 . コマンドフロー

代表例です。



6 . VB構造説明

DLL構造

DLL	VbSharedData.dll
コマンド送信	SendCommand
受信、文字列	GetSharedData / 拡張用
受信、連続データ	GetISharedData / 拡張用

DLLコール

```
Private Declare Function SendCommand Lib "VbSharedData.dll" (ByVal Buffer As Any) As Long
Private Declare Function GetSharedData Lib "VbSharedData.dll" (ByRef Buffer As Any) As Long
Private Declare Function GetISharedData Lib "VbSharedData.dll" (ByRef Buffer As Any) As Long
```

変数定義

```
Dim Status As Long
Dim sBuffer(4096) As Byte
Dim iBuffer(4096) As Long
```

コマンド送信

```
Status = SendCommand(文字列)
```

例

```
SendCommand( "RUN" );           //RUNコマンド
SendCommand( "LOAD,DATATEST" ); //LOADコマンド
```

複数のパラメータは、上例のように、カンマ区切り

受信

```
return = GetSharedData(sBuffer(0)) //文字列の場合
return = GetISharedData(iBuffer(0)) //連続の場合
( returnは、1:データ有り、0=データ無し. チェックの必然性無し )
```

7 . VC++構造説明

DLL構造

DLL	VbSharedData.dll
コマンド送信	SendCommand(*)
受信、文字列	GetSharedData(*) / 拡張用
受信、連続データ	GetISharedData(*) / 拡張用

DLL追加

VbSharedData.lib を作業フォルダにおきます
プロジェクト プロジェクトの追加 ファイル
VbSharedData.lib を追加します

変数定義

```
#include "VbSharedData.h"
int status;
char SharedBuffer[4096];
int ISharedBuffer[4096];
```

コマンド送信

```
status = (*SendCommand)(文字列)
```

例

```
SendCommand( "RUN" );           //RUNコマンド
SendCommand( "LOAD,DATATEST" ); //LOADコマンド
```

複数のパラメータは、上例のように、カンマ区切り

受信

```
return = (*GetSharedData)( SharedBuffer ) //文字列の場合
return = (*GetISharedData)( ISharedBuffer ) //連続の場合
( returnは、1:データ有り、0=データ無し. チェックの必然性無し )
```